

渡辺 博^{ひろし}

市 政 報 告

令和8年
春季号



公式HP



会 派

自由民主党フォーラム

委員会

市民教育常任委員会

子育て環境充実 調査特別委員会

期 数

10期

令和8年

第一回 定例会 議会報告

令和8年第一回定例会予算議会が終了しました。同時に、新年度に向けた行政幹部の新しい布陣も示されました。今回の議会では、本市史上最大規模となる予算案が提出され、その内容について集中的な審議が行われました。俯瞰して振り返ると、各議員がそれぞれの課題意識と視点を持ち、時には一つの政策に強くこだわりながら質疑を重ね、行政との間で実質的で充実した議論が交わされた議会であったと感じています。

議会終了後、市長から行政幹部の新しい布陣について連絡をいただきました。私自身の率直な感想として、新体制には大いに期待できるとお伝えしました。史上最大の予算を執行していくうえで、行政組織の力が問われる一年になります。新しい幹部のもとで、組織としての力が十分に発揮されることを期待しています。

一方で、議論が特に集中したのが、(仮称)音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合

施設です。当初の想定を大きく上回り膨れ上がった事業費については、会派を超えて議会全体で懸念が共有されました。そのため、予算執行にあたっては市民理解を得るための一層の努力を求める付帯決議が議決されました。

文化と震災の記憶を未来に継承する拠点整備は、都市の将来に対する投資ともなり得ます。しかし一方で、判断を誤れば将来世代への負担となる可能性もあります。まさに「未来への投資」か「将来への負債」かが問われる事業です。だからこそ、市長自らが先頭に立ち、事業の意義や財政見通しについて、市民に対し丁寧で積極的な説明を重ねていくことが重要だと考えます。

議会の責務は、市民の利益の観点から行政を点検し続けることです。今回の議論を踏まえ、引き続き責任ある監視と建設的な提案を重ねていきたいと思っています。

■事務所

〒983-0841
仙台市宮城野区原町二丁目1の35

■連絡先

TEL 293-2313 FAX 792-9061
mail hiroshimr97@gmail.com

■HP

<https://hiroshidesu.net/>

令和7年 仙台市議会定例会

第1回・第2回・第3回・第4回

代表質疑・一般質問 抜粋

2025年 第1回定例会(令和7年2月7日～3月13日)

☆私の一般質問

- 榴岡公園の歴史的価値を鑑み、みやぎNPOプラザ移転後の土地を含め再整備を図るべき
- 厳しい財政状況においても市民生活を守ることが重要
- 市交通事業は市長の責務として持続可能性を確保すべき
- すぐにでも実現できる身近な遊び場整備



▲昭和46年、孝勝寺境内へ移転前の榴ヶ岡の釈迦堂付近写真・ミナカワ様提供

☆私の予算等審査特別委員会

- 伝統文化の継承と武道教育
- のびすく宮城野と原町児童館の一日も早い課題解決を
- 科学技術発展への先人教育
- 日本文化とダイバーシティ
- 身近な遊び場の早期整備を



▲児童館の乳幼児親子行事の様子

2025年 第2回定例会(令和7年6月9日～6月24日)

☆私の一般質問

- 社会全体で子どもをいじめから守るため「いじめ撲滅宣言」を行い、市民運動とせよ
- 「人間をつくる」教育ともなる先人教育に力を入れるべき
- 市民の財産である分庁舎の民間活力を生かした建て替え
- 図柄入りナンバープレートのデザイン変更と普及啓発
- 東北大学情報知能システム研究センターの利用者拡大

2025年 第3回定例会(令和7年9月5日～10月8日)

☆私の一般質問

- 各般の施策を支える町内会の重要性和持続への早急な支援
- 市民活動における保険の必要性和補償対象外への対応
- 震災経験の継承と避難所運営訓練の未実施地域の解消
- 私道整備補助制度の要件緩和
- 魅力向上へライトアップ活用

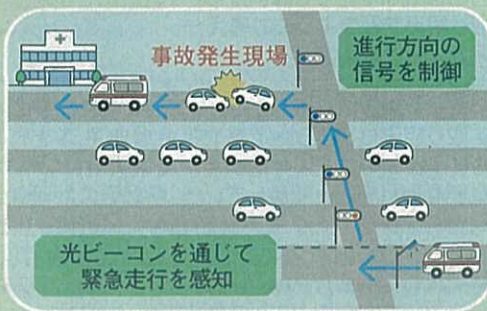


▲震災の悲惨さや教訓を後世へ語り継ぐ女性防火クラブみやぎの朗読会の様子

令和7年 仙台市議会定例会

☆私の予算等審査特別委員会

- FAST*未設置路線への拡充
- 遠慮なく救急要請できる環境
- 教職員の接遇研修の必要性
- 宿題廃止の判断と丁寧な説明
- 人格的基盤を育む儀礼教育
- 大型プロジェクトと説明責任



▲救急搬送時間の短縮が期待される
FAST (現場急行支援システム)

用語解説

※FAST (ファースト)

緊急車両を感知して信号機を優先制御することで、救急車の患者搬送時間を短縮するほか、救急車やパトカーの現場到着時間の短縮を図るとともに、緊急走行に起因する交通事故を防止するシステム。

2025年 第4回定例会 (令和7年12月2日～12月17日)

☆私の一般質問

- 実効性ある空き地管理へ制度再構築を
- 榴岡公園でミスト設備等の暑熱対策を
- 保存樹木制度の時代に合わせた再構築
- 市長と知事との公式協議を制度化せよ
- 仙台城大手門の復元に加え、周辺エリアの歴史的景観の整備で文化の表現を

令和8年 仙台市議会定例会

第1回

2026年 第1回定例会 (令和8年2月8日～3月12日)

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点
複合施設 懸念ある市民理解の確保

問

巨額な予算への懸念と市政運営の持続可能性・次世代への財政負担への心配が市民の間で急速に広がっている。市民協働は条例にまで定めた仙台市政の基本中の基本であり、市民の理解と合意が不可欠である。手続きを踏んでいるとの説明があるが、市民に伝わらなければ意味がない。先きの知事選で現職が薄氷の選挙になったのは政策よりプロセスの問題であり、他山の石とすべきだ。市長の現在の認識と市民理解確保への取り組みを問う。

答

本施設は災害文化と文化芸術が融合する世界に類のない施設であり、次世代の感性・創造力・困難から立ち上がる力を育む拠点であるとともに、世界に貢献する本市の姿勢を示すものでもある。これまで多くの方の意見を聞きプロセスを組んできたが、認知度がまだ足りないとのこと意見も受けている。市民との「ひざ詰め」の対話の機会を作っていることを考えている。健全な財政運営を確保した上で未来への投資を行うことが市政運営の方向であり、丁寧な説明と対話を通じて市民との思いの共有を図りながら着実に整備を進める。



健康都市宣言

「市民のすべてが、健康で文化的な生活を営むことのできる都市」の実現に邁進します

産業、交通、建設、教育、文化、民生等あらゆる施策をここに結集します (昭和37年3月16日議決) 抜粋

仙台市は特別自治市の実現を目指しています

地域の夢を実現するのが議員の役目です

予算議会ダイジェスト

1 震災伝承(1) 女性防火クラブの朗読活動の評価

問 津波の遺物を十分に残さなかったこともあり経験の訴求力が弱まっているとの指摘がある。その不足を補ってきたのが女性防火クラブの朗読活動である。被災者が命を削るようにして書いた文章を肉声で語る体験は聞く人の心を揺さぶる強い力を持っていると確信するが、市長はいかがか。

答 市長
被災者お一人お一人の体験の重み、肉声で届ける言葉の力を強く感じた。女性防火クラブの皆様の長年にわたる大変貴重な活動に改めて敬意を表する。

2 震災伝承(2) 女性防火クラブ活動の役割と持続可能性

問 伝承を担ってきた女性防火クラブの皆さんの高齢化が進んでいる。活動の役割をどう評価しているか。持続可能性の確保は仙台市行政の責任ではないか。



女性防火クラブの活動は深い感動と教訓を伝えます

答 まちづくり政策局長
演劇の手法も取り入れた朗読は、震災の記憶を伝えるにとどまらず、備える意識や暮らしの大切さを感じさせる訴求力を持つと認識している。文化芸術の力を生かした災害文化の実践例として、培ってきたノウハウを次世代につないでいけるよう検討を進める。

3 震災伝承(3) 複合施設と朗読活動の連携

問 (上記の流れを受けて)
伝承を担ってきた女性防火クラブの取組を市で荷なうべき。まだ検討段階で本予算に措置がないのは残念。先祖伝来の土地を離れさせた仙台市には重大な責任がある。複合施設の蓋然性説明を強化すべきであり、市長自身の言葉で答弁すべきだ。活動の役割をどう評価しているか。女性防火クラブの持続可能性の確保は仙台市行政の責任ではないか。

答 まちづくり政策局長
朗読には震災の経験・教訓が多くの方に共有・継承されていく力がある。複合施設は朗読・演劇など文化芸術の力で災害に備え乗り越えていく文化を育む拠点である。女性防火クラブの朗読を先行事業に活用するとともに、将来的に複合施設のコンテンツとなる方策を検討する。

4 貧困・ひとり親家庭支援 行政と民間団体の役割分担

問 物価高騰の中、貧困対策とひとり親家庭支援は待ったなし。民間団体が寄付を募っている状況は、社会で何かが起きている兆しではないか。行政の第一義的責任と民間団体との役割をどう整理し連携するのか。誰一人取り残されない社会にすべきと考えるが、政治家としての市長の認識を問う。

答 子ども若者局長
行政の責任のもと、誰一人取り残さない仕組みの構築が重要。多様な相談窓口・居場所を設け支援が必要な家庭の早期把握に努めている。新年度は各区役所・宮城総合支所に子ども家庭センターを整備し、民間団体との連携をより一層強化する。

5 貧困・ひとり親家庭支援 地域拠点を活用した具体策

問 児童館など地域拠点を課題把握と早期支援につなげる仕組みを構築する考えはあるか。誰一人取り残さない具体策を改めて問う。

答 子ども若者局長
多様な相談機関の運営・地域ネットワークによる見守り・アウトリーチ支援に取り組んでいる。新年度から子ども家庭センターが中心となり保育施設・児童館等の地域拠点と連携してネットワークを強化し、支援が必要な方の早期把握に取り組む。

6 子どもの視点のまちづくりへの反映

問 まちづくりの主体としてとりわけ子どもたちに注目すべきである。子どもの視点からの提案を政策形成にどう位置づけるか。各都市が競い合うように取り組んでいる中、仙台市は遅れをとってはいけない。他都市と比較して本市の取り組みをどのようにお考えか。

答 市長
子どもをまちづくりの主体としてとらえ意見を市政に生かす取り組みは、自己肯定感や社会参画意識を高めるとともに子どものニーズを踏まえた施策実現につながる大変重要な取り組みと認識している。各局区の計画策定・事業検討でアンケートや意見交換会を行い、仙台子ども財団の「子ども意見ひろば」も活用している。他都市の事例も参考にしながら庁内連携を強化し、子どもの視点をまちづくりに生かす取り組みを推進する。

7 切れ目のない子育て支援と都市経営の戦略的位置づけ

問 切れ目のない子育て支援策は単なる施策ではなく、都市の持続可能性を高める投資であると考え。出生・成長・教育・就労・定住の循環を描く構想のもとに本予算は位置づけられているのか。

答 市長
子育て支援を未来への投資ととらえており、新年度予算では第一子以降保育料無償化・給食費完全無償化・体験格差是正バウチャー事業・国際教育推進など段階にわたる切れ目のない支援を体系的に盛り込んだ。若者会議・スタートアップ支援など人への投資も重視している。これらは個別施策の積み上げではなく、子育て・若者の挑戦・人材定着を有機的につなげ人づくりの好循環を図る都市経営の戦略的予算として位置づけている。

Top!cs 仙台市で初めてとなる「ゾーン30プラス」が、宮城野区原町で実現しました。

生活道路の安全性向上を目的に、地域住民の要望を受け、地元、警察、仙台市が連携して取り組んだものです。警察庁の調査では、通常のゾーン30導入後、重大事故の発生件数が約3割減少したことが確認されており、物理的な安全対策を加えるゾーン30プラスは、さらに高い事故抑止効果が期待されています。これまで地域で懸念されていた交通安全の課題についても、解決に向けて大きな前進となりました。今後も地域の安心・安全なまちづくりを進めていきます。

